

# 道徳教育の充実をめざして ～道徳教育地区別推進協議会より～

## 学校教育課通信

令和3年1月21日 第163号  
編集・発行：県南教育事務所 板橋竜男

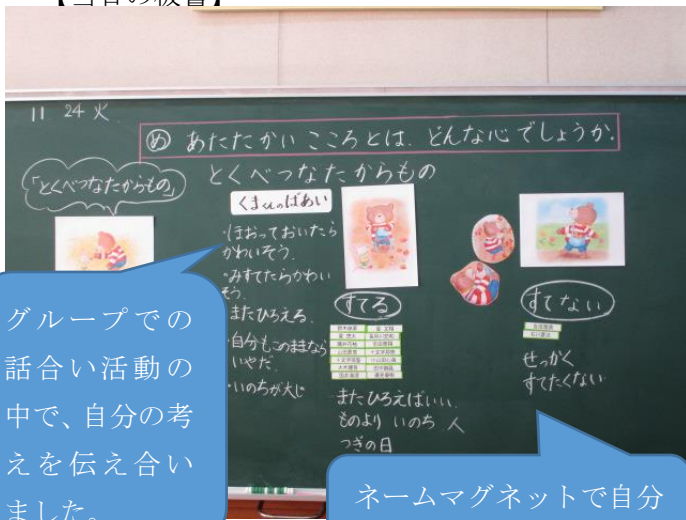
令和2年11月24日、道徳教育総合支援事業研究推進校である白河市立小田川小学校を会場として、開催された道徳教育地区別推進協議会について報告いたします。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、内容を絞って半日の日程とし、参加者を限定しての開催となりましたが、域内の小・中学校、高等学校、特別支援学校から23名の先生方に参加いただきました。

### 公開授業

2学年 授業者：金澤 敦子 先生  
主題名：あたたかいところ  
教材名：とくべつなたからもの

#### 【当日の板書】

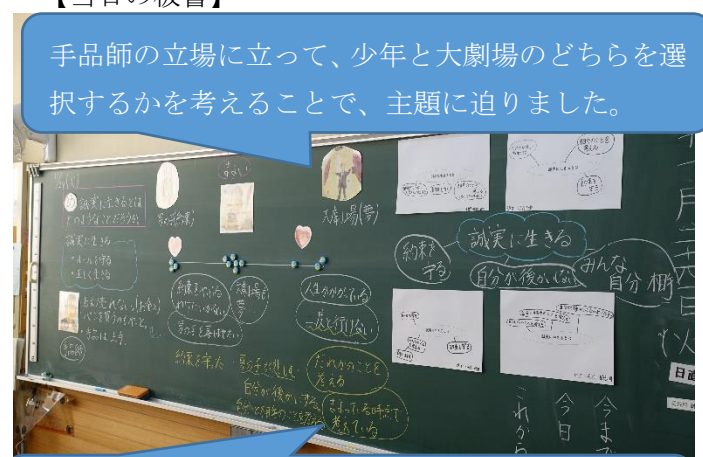


グループでの話し合い活動の中で、自分の考えを伝え合いました。

ネームマグネットで自分の立場を示しました。

5学年 授業者：畠野 剛 先生  
主題名：誠実に生きる  
教材名：手品師

#### 【当日の板書】



手品師の立場に立って、少年と大劇場のどちらを選択するかを考えることで、主題に迫りました。

心情スケールやウェビングを活用して、多面的・多角的な思考を促しました。

#### ～参加者の感想から～

- 心情スケールや自己の振り返りの仕方についてなど、視覚的にわかりやすい方法をとっていた。
- ネームプレートを使って自分の考えを可視化したり、話し合い活動（グループ）を取り入れたりしていた。
- 授業のはじめと終わりで価値に対する考えに変化がみてとれた。
- 教師の意図、子どもたちにどんなことを考えさせるかをしっかりともつことが大切で、それによって展開が変わると改めて思った。
- 立場をはっきりさせる手立て等参考になった。
- 教師自身が多面的・多角的に考えられる立場にいないければ、と強く感じた。

### 講演会 「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり ～道徳授業のPDCA～」

秋田公立美術大学副学長 毛内 嘉威 教授

児童生徒の実態に応じた指導、教材の生かし方や発問について、具体的な例を示しながら解説していただきました。

また、全国各地の学校に赴いて参観された道徳科の授業から、思考ツールの活用や授業づくりの工夫について紹介していただきました。

講演の最後には、参観者からの質問にも丁寧に応じていただきました。



○道徳教育全体計画の別業「小田川リーフ」

令和2年度 小田川小学校「道徳教育別業2」（6学年 重点）

2

小田川リーフ

第6学年 節度節制 善悪の判断 道徳科授業

実施月 1学期：6月  
主題名 「弱い心」をコントロール 教材名 本当にだいじょうぶ？  
ねらい ○安全に気をつけることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけようとする。  
反省

1学期：国語「天地の文」 反省：  
6月 保健体育「病気のよぼう」 反省：

実施月 2学期：11月  
主題名 情報モラル 教材名 グループ外し  
ねらい ○相手と対面しないSNSの世界においても相手の気持ちを考えることの大切さが分かり自律的に判断して行動しようとする。  
反省

11月家庭科「工夫しようおいしい食事」 反省：  
11月 学級活動「携帯電話の使い方」 反省：

実施月 3学期：1月  
主題名 本当の自由 教材名 大空に飛び立つ鳥  
ねらい ○本当の自由とは何かを理解し、規律ある行動を取ろうとする。  
反省

1月 国語「メディアと人間社会」 反省：

求める子どもの姿 自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけること  
自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動を取ること

多くの学校で作成されているのは、「時系列で、内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別業」ではないでしょうか。このような別業は、年間の見通しが持てる反面、情報が多すぎて活用しにくいという課題があります。

小田川小学校では、時系列でまとめた別業だけでなく、**各学年で重点的に扱う内容項目を明確にした学校オリジナルの別業「小田川リーフ」**を作成して活用しています。

別業は、今求められているカリキュラム・マネジメントを具現化するツールであり、より実効性のある別業こそが、道徳教育の充実への近道です。

形式がない別業だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが最良です。形式にこだわらず、今ある計画を少し工夫・改善しながら、「学校ならではの」別業を作成したいものです。

○道徳のあしあと



各学年の廊下には、道徳の授業での学びを振り返るコーナーが設置されていました。

低学年では授業で用いた場面絵等を活用して掲示したり、高学年では話し合い活動で記入したウェビングや板書の写真を掲示したりする工夫がなされています。

このように道徳の授業での学びを振り返らせることで、子どもたちが道徳の授業で学んだ道徳的価値を日常生活でも意識するようになり、道徳的実践につなげていくことができます。

小田川小学校の取組は、令和2年11月30日発行の「道徳のとびら」で紹介されています。また、今後発行予定の「道徳のかけ橋」でも紹介される予定です。